

※下記の指摘事項、課題を踏まえて、Ⅱ点検・評価 Ⅲ【達成目標】欄を記述してください。

（進捗状況を【現状説明】に記述し、必要に応じて新たに【目標】を設定する。）

2016年度大学評価（認証評価）結果指摘事項 ＜概評＞ ・「活動への参加について学部・学科また個々の教員間で意識の差が大きい」ことを自己点検・評価しており、さらなる改善を期待したい。
2016年度外部評価委員会指摘事項 【特筆すべき事項】 貴大学の特色を活かして、個々の教職員や組織体によって多岐にわたる社会貢献・国際貢献活動が行われていることは評価できる。 【改善提言】 多くの社会貢献活動等に関して、一定の成果は見られるものの、その活動の検証が組織的に十分行われていない。これらの活動を大学としての強みに結び付けられるよう、大学全体としての活動の集約と次年度以降の計画への反映が求められる。また、これらの活動は組織的にホームページに掲載し、積極的に公表することも必要と思われる。
前年度からの課題（2016年度点検・評価シート IV次年度への課題 より転記） 学部レベルで本学との提携校オランダシオス(CIOS)校との交流が進んでいるので、国際交流に関わる大学院担当教員を通じて本研究科とシオス(CIOS)校との国際交流事業を検討する。

I 評価項目・担当部局

対象部局	スポーツ・健康科学研究科
評価基準 8	社会連携・社会貢献
点検・評価項目(2)	8-2 教育研究の成果を適切に社会に還元しているか。
評価の視点	教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動
	学外組織との連携協力による教育研究の推進
	地域交流・国際交流事業への積極的参加
点検・評価項目(3)	8-3 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

Ⅱ 点検・評価 対象期間は2016年4月～2017年5月までとする。（教員数、学生数などのデータの基準日は2017年5月1日）

【点検・評価項目ごとの現状説明】

8-2	本研究科では、鳩山町在住の高齢者を対象にした廃校になった小学校の1室を利用して毎年サーキットウエイトトレーニングを実施している。1回のトレーニングは3ヶ月間、週2回行われるが、大学院生がトレーニング指導を行っている。また、鳩山町の保健センターと連携して年2回、AKB（歩く、筋量、バランス能力）測定を実施している。 また、大学院生を中心に東松山市健康長寿課で行っている6ヶ月間の「毎日1万歩運動」のトレーニング前・後の中高齢者のフィジカル測定を行っている。さらに高坂丘陵地区の住民を対象に年1回、体力測定を実施している。これらの測定はすべて教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動である。学生は実践的な指導法の学修ができる。一方、学外組織との連携協力による教育研究の推進に関しては、個人レベルでは教育研究が推進されているが、研究科レベルでは教育研究は推進されていない。また、国際交流事業への積極的参加については、オランダ及び中国と国際交流協定は締結されており、大学院担当教員が日本とオランダの小学生を対象にした体力比較事業に参加しており、またオランダ・シオス校と大学院と交流についても検討して行く運びとなった。
8-2	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。 （1）教育研究の成果を基にした社会へのサービス活動について【×】 具体的事例： （2）学外組織との連携協力による教育研究の推進について【×】 具体的事例： （3）地域交流・国際交流事業への積極的参加について【×】 具体的事例：
8-3	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証は行っていない。適切性に対する調査の責任主体・組織、権限、手続きを明確にしていない。2016年度もその適切性を検証は不十分であったので、今後、自己点検委員会が定期的な検証および適切性について検証していく。
8-3	以下の評価の視点について、新たな取組の有無、または、継続している取組の成果の有無を【 】内に○・×で記入し、○の場合はその内容と結果を記述してください。

	社会連携・社会貢献の検証に関する責任主体・組織、権限、手続きについて【×】 具体的事例：
--	---

【効果が上がっている事項】

8-2	
8-3	

【改善すべき事項】

8-2	学外組織との連携による教育研究は、個人レベルでは行われているが、本研究科と他大学研究科との連携事業は行われていない。また、国際交流事業に積極的に参加するシステムが構築されていない。
8-3	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証は行っていない。適切性に対する調査の責任主体・組織、権限、手続きが明確にされていない。

Ⅲ 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	8-3 本研究科委員会および本研究科内の自己点検・評価委員会において、社会連携・社会貢献の適切性について定期的に検証する責任主体・組織、権限、手続きを明確にする。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に定期的検証の責任主体・組織、権限、手続きが記載される。	→		B	B	
			→				
			→				
16 年度 目標	8-2,8-3 本研究科委員会および本研究科内の自己点検・評価委員会において、地域交流に関する評価制度を確立する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に記載される。			B		
	8-2,8-3 本研究科委員会および本研究科内の自己点検・評価委員会において、国際交流事業の検討を開始する。	検討結果が研究科委員会議事録に記録されるか、あるいは「スポーツ・健康科学研究科自己点検・評価委員会報告書」に記載される。					
17 年度 目標	(対象期間は 2017 年 4 月～2018 年 3 月) 本研究科委員会および本研究科内の自己点検・評価委員会において、地域交流に関する評価制度を検討する。 自己点検・評価委員会において、国際交流事業の検討を開始する。	研究科委員会議事録に記録される。				B	

Ⅳ 評価専門委員会所見

8-2 【現状】【改善】【目標】 スポーツ・健康科学研究科が地元の鳩山町・東松山市・高坂地区で実施している様々な社会サービス活動は大いに評価できます。これらサービス活動を通しての教育研究の推進、学外組織との連携協力、国際交流事業への積極的参加などの検討・取り組みも期待されます。

Ⅴ 所見への対応

8-2 【現状】【改善】【目標】 所見にてご指摘のように、地元の鳩山町・東松山市・高坂地区で実施している様々な社会サービス活動を通しての教育研究の推進、学外組織との連携協力、国際交流事業への積極的参加などにも検討し取り組んでいきたいと思ひます。

Ⅵ 次年度への課題

学部レベルで本学との提携校オランダシオス(CIOS)校との交流が進んでいるので、国際交流に関わる大学院担当教員を通じて本研究科とシオス(CIOS)校との国際交流事業を検討する。

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

B8-1 大東文化大学の基準別基本方針 HP

<http://www.daito.ac.jp/information/about/basicpolicy.html> 《既出》B1-5

〔追加資料〕